

令和8年度全国学力・学習状況調査 瑞浪市の結果について

令和8年10月 瑞浪市教育委員会

I 調査の概要

(1) 目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 前述の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象 小学校第6学年(268人)、中学校第3学年(250人)の児童生徒

(3) 実施日 令和8年4月23日(木)

※中学校 英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」:令和8年4月20日(月)~23日(木)のうち1日

※中学校 英語「話すこと」:令和8年4月24日(金)~5月29日(金)のうち1日

2 教科に関する調査結果の概要

☆全国の平均正答率と市の平均正答率の比較

(「◎」+5.0以上 「○」+1.1~+4.9 「-」-1.0~+1.0 「△」-1.1~-4.9 「▲」-5.0以下)

(1) 各教科における市と全国との平均正答率の比較

	国語	算数・数学
小学校6年生	○	△
中学校3年生	△	△

※「中学校 英語」の調査結果は、公開問題の平均正答数や平均 IRT スコアで示されているため、上記(1)の記載はなし。

(2) 各学年の各教科における市と全国との領域別平均正答率の比較

①小学校6年生

【小学校国語】

知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
言葉の特徴や使い方	情報の扱いに関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
○	-		-	-	-

ポイント(付けたい力)	考察、今後の対策等
・文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること	・文章を引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことに弱さが見られた。 →文章を読んで理解したこと(根拠)に基づいて、自分の考えをもつ場を位置付ける。また、授業や日常での話し合いの場において、「根拠」と「考え」を区別して表現することを意識できるように指導していく。
・「話すこと・聞くこと」について、目的を明らかにして、必要な情報を伝え合うこと	・対話において、話し手の目的や意図を捉えることに弱さが見られた。 →小集団交流の場において、話し手が目的や意図を明らかにするとともに、聞き手の目的を明らかにする。目的のために話し手は、どのように話せばよいかを考えることや、聞き手は視点をもつこと等を指導していく。

【小学校算数】

数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
△	—	△	△	—

ポイント(付けたい力)	考察、今後の対策等
・百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めること	・問題文中の何を「基準量(もとにする量)」とみるかが分からず、2つの数の関係を正しく捉えることに弱さが見られた。 →単元の導入では、買い物など子供たちにとって身近な生活の場面を想定し、割合を活用する場を設定していく。また、問題文中の百分率について、「何を100と見るのか」を確認する場を設け、立式の見通しがもてるように働きかける。
・基準量、比較量、割合の関係について、図を活用して正しく捉えること	・基準量の何倍に当たる量を、基準量より何目盛り分多い量であると誤って捉えている。 →問題文を読む際に、「もとにする量・割合・比べられる量」の3つを明らかにし、図や線分図で表す場を位置付け、割合の関係を理解できるようにする。

②中学校3年生

【中学校国語】

知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
△	△		△	△	▲

ポイント(付けたい力)	考察、今後の対策等
・話し合い活動において、互いの考えを尊重しながら結論に導くこと	・話し合ったことを基に、相手の意見を取り上げながら、自分の考えとその理由を述べることに弱さが見られた。 →話し合いの目的(何のために話し合うのか)を明らかにし、活動のはじめに全体で確認する。話し合いで得た多様な意見を踏まえ、自分の考えを再構築したり、まとめたりする活動を位置付けていく。
・文章の構造を把握し、全体と部分の関係を明らかにして読み取ること	・文章全体の構成を把握したり、文脈上の語句の意味を正しく捉えたりすることに弱さが見られた。 →「読むこと」領域の授業において、文章全体の構成を把握する場を位置付ける。また、全体の主題に対して、段落や事例などの部分がどのように結び付いているかを意識して読み取る指導をしていく。

【中学校数学】

数と式	図形	関数	データの活用
△	—	△	△

改善ポイント	考察、今後の対策等
・事象の特徴や性質について理由を考察し表現すること	・「関数」領域において、数量の変化にどのような規則性があるのかについて、グラフや式を根拠にして、筋道立てて論理的に説明することができない。 →単に計算や答えを求めるだけでなく、事象から関数関係を見だし、その特徴や性質について理由を考察し表現する活動を位置付ける。

・四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解すること	・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取ることに弱さが見られる。 →四分位数や箱ひげ図の必要性和意味を考える場を位置付け、データの分布を可視化できることなどを理解できるよう働きかける。また、箱ひげ図を使って問題を解く際に、四分位範囲を根拠にして説明する場を位置付けるなどして、意味の理解を図る。
---------------------------	--

【中学校英語】

※「中学校 英語」の調査結果は、公開問題の平均正答数や平均 IRT スコアで示されているため、観点ごとの全国との比較の記載はなし。平均 IRT スコアは、全国をやや下回っている。

改善ポイント	考察、今後の対策等
・与えられた情報に基づいて、自分の考えとその理由を書くこと	・英文の内容から要点を捉え、自分の考えとその理由を書くことに弱さが見られる。 →英文を読む際に、目的をもって読み、自分の考えをもつように働きかける。また、理由について考えながら読む活動を大切にする。
・目的に応じて必要な情報を聞き取ること	・日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることには弱さが見られる。 →対話活動の際に、聞く視点をもつ指導をする。また、聞いた後の活動を意識させた読み取り活動を仕組む。「聞くこと」「読むこと」のつながりを大切にしたい言語活動を意図的に仕組む。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査から

(「◎」+5.0 以上 「○」+1.1～+4.9 「－」-1.0～+1.0 「△」-1.1～-4.9 「▲」-5.0 以下)

(1) 小・中学校で、全国の割合を上回った項目 (一部要約)

項目	小学校	中学校
朝食を毎日食べている	○	○
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	○	○
自分には、よいところがある	○	○
先生がよいところを認めてくれる	○	○
人が困っているときは、進んで助けている	○	○
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できる	◎	○
人の役に立つ人間になりたい	－	－
友達関係に満足している	○	○
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	○	○
学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる	◎	○
学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	◎	○

- ・生活習慣に関わる質問項目について、昨年度に引き続き、全国平均を上回った。また、「自分には、よいところがある」「先生がよいところを認めてくれる」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できる」「友達関係に満足している」の質問項目についても全国平均を上回っており、子供たちと学校の教職員との関係性が良好で、子供たちの安心感につながっていると考えられる。
- ・学級で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、学級をよりよくするための解決方法を決めたりする質問項目についても、全国平均を上回り、学級が安心できる居場所となっていることが考えられる。

(2) 小・中学校で全国の割合を下回った項目

項目	小学校	中学校
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる	△	△
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりの勉強時間（2時間以上）※学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む	▲	△
土曜日や日曜日など学校が休みの日の、1日当たりの勉強時間（2時間以上）※学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む	▲	△

・家庭学習については、昨年度に引き続き、充実させていく必要がある。学年や教科ごとに家庭学習の目的や具体的な方法を示し、子供たちが学習の見通しをもって自主的に取り組むことができる手立てを講じていく。また、学校の授業時間以外の読書量について、小学校では、1日当たりの読書量が30分未満の児童が全国平均よりも上回った。読書量の低下がうかがえる。学校図書館を利用する機会を設け、家庭においても読書に親しむ習慣を付けていく必要がある。

4 ICT 機器の活用に関わって

項目	小学校	中学校
前学年（小学校5年生・中学校1,2年生）までに ICT 機器を利用した頻度（毎日～週3回）	◎	◎
文書を作成することができる	△	△
インターネットを使って情報を収集することができる	－	－
情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる	△	△
学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる	△	△

・ICT の活用頻度は、全国平均を大きく上回っている。今後も目的に応じて使用する機会を設けていく。また、調べたことをまとめたり、発表したりする際に、必要に応じて ICT を活用する場を位置付けていく。子供たち自身が目的に応じて ICT を活用し、情報を整理するスキルを身に付けることができるように働きかけていく。

5 各教科において

項目	小学校	中学校
国語の勉強が好き・どちらかといえば好き	○	－
国語の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば分かる	－	▲
算数・数学の勉強が好き・どちらかといえば好き	△	－
算数・数学の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば分かる	－	△
英語の勉強が好き・どちらかといえば好き	▲	○
英語の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば分かる		△

・普段の授業において、「できた」「分かった」を積み重ねていくことや、教科を学ぶ楽しさについて子供たち自身が実感できることを大切にしながら、授業づくりをしていく必要がある。

・中学校の学習では、学習内容の理解度が、教科を学ぶ楽しさに大きくつながっていくと考えられる。今後も、より多くの生徒が「できた」「分かった」を実感できるよう、授業改善を進めていく必要がある。

※本調査で明らかにできるのは、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部や、学校における教育活動の側面についてである。